

海の洗礼！ 船酔いとの闘い

九月二七日に名瀬港を出港し、函館へ向け航路を取りました。予定では太平洋側を航行する航路でしたが、低気圧の影響により日本海側からの航路となりました。

本科生徒達は初めての複数日による航海となり、また、低気圧の影響もあり生徒達が心配していた船酔いですが二八日、結果は・・・ほぼ全滅（15名中14名）でした。朝から夜までずっと苦しみながらも頑張り、当直や作業をする姿勢は素晴らしかったと思います。

船酔いはほとんどの人がなることであり、慣れるまでつらいことですが、自然を相手にする職業である船員は通ってきた道なので、船を嫌いになることなく頑張ってもらいたいと思います。（ちなみに専攻科生もほぼ全滅でした）

平和への願い 戦没者慰霊祭

例年ですと硫黄島沖にて慰霊祭を行います。今航海は沿岸実習のため日本海にて行いました。戦時中日米多くの犠牲者がでており、激戦地でもあった硫黄島でも多くの被害が出ました。

岩田船長より慰霊祭の意義や説明を受けそれが平和、戦争、について考え、現在平和な日本を築いていただいた多くの方々に感謝し、そして、二度と戦争がないよう生徒全員で黙祷、献花を行いました。



到着！函館港！！ 船酔いを乗り越えて

一〇月一日、生徒全員船酔いを乗り越えて函館港に入港しました。入港時には専攻科生は船首、船尾にそれぞれ配置され入港作業を行い、本科生も同じく配置につき見学を行いました。本航海は入出港が多く、内航を希望している生徒達にはとてもよい勉強となります。また、本科生で入港時に船首で見学するのは初めてであり生徒達は間近で行われる迫力ある作業にとっても驚いてるようでした。

専攻科生も本科生の手下となるような動きや気配りが出来ており、とても頼もしく思えました。

今回、新型コロナウイルスの影響により観光等は出来なく残念ではありましたが、北海道の新鮮な空気を、目の前に見える函館山などの風景に満足しているようです。



針路は南へ

長崎向け

函館港を出港し、長崎へと向かいます。北上するときには船酔いに苦しみ、見張りも満足に出来なかった生徒達ですが、勉強している法規や操舵を実際の船にて学べるよい機会です。次は頑張ってもらいたいです。函館にはまた来たいですとの声が聞こえてくるほど、良い経験になったと思います。生徒達よりまた土産話を楽しみにして頂けたらと思います。



また函館港において鹿児島出身の自衛隊員の方に声をかけてもらい掃海艇【いずしま】内の見学をさせてもらうことができました。艦内の説明を受ける生徒達は普段目にする事の無い機械や艦橋内の計器に興奮気味でした。また海上自衛隊函館基地副長・瀬戸口二等海佐（伊集院出身）より「同じ海にて、学んでいる若い君たちを誇りに思う。また函館に来た際には声をかけて下さい」との言葉をいただき、生徒達も誇らしげな表情でした。瀬戸口さんには急な見学をさせていただいて感謝申し上げます。



本科生
頑張っています!!

今航海は沿岸実習のため、さまざまな事に取り組んでいます。その中の一つが経験することです。例年であると出入港の回数は少なく作業を見学するだけなのですが、安全面に配慮し経験出来ることはさせてもらっています。



まずは操舵テストです。これは出港時、実際に舵が効くかどうかの試験を行います。舵機室と船橋とで連携を取り、指示した舵角になっているか、また、非常時には舵機室にて直接舵を操作する体験もさせてもらいました。

次に出港時におけるロープの船内回収です。本船船尾には回収する甲板機器がないため人力での回収となります。海水を吸い重たくなったロープを船内に取り込むのは大変であり、本科生も汗をかきながらの作業でした。ほかに様々な経験をさせてもらい大きく成長していると感じています



専攻科生も
もちろん頑張っています!!!

専攻科生にとっても初めての沿岸航海になりますが、それぞれが高い意識を持ち作業や勉強に取り組んでいます。また、本科生にも優しい指導や気遣いをしてくれており、とても頼もしく感じます。本科生の良き手本となる行動をこれからも期待しています。

【海洋技術科】
天測計算や各港についての潮汐の算出や喫水の調査、また各航路の潮流計算など様々な勉強をします。将来航海士を目指すうえで必須の事なのでしっかりと学んでもらいたいと思います。また、同じコースの後輩からも、勉強から私生活に至るまで頼られおり、即戦力となる航海士を目指してほしいです。

【機関技術科】
各計器や清浄装置などの開放整備や、各機関の数多い起動停止手順を覚え、座学で学んだことを実際の機関で作業することの難しさや責任感を感じながら、日々鍛錬しています。「仕事は人から盗め」という言葉があるように、見て技術を学べるようになってほしいです。



長崎港入港
間近に見る軍艦島

一〇月七日長崎港に入港しました。函館港と同様に観光等はできませんでしたが、生徒達はそれぞれフレッシュな気持ちでいたようです。また、長崎港を出港してから枕崎に向かう際、船長の計らいにより軍艦島(瑞島)の近くを航行してもらい間近に見る軍艦島に生徒達は興奮しっぱなしでした。

この航海が終わり、次は関門海峡などの瀬戸内海の各航路を通ります。特に海洋技術の生徒達にとっては座学で学んだ知識を実際の現場と照らし合わせるなどとても貴重な経験になることかと思えます。少しでも多く学び将来の糧となることを期待したいと思います。

現在、生徒達は大きな事故やケガ、体調にも変化なく元気に過ごしています。このまま下船日まで過ごしてもらいたいです。また瀬戸内海の詳細については次号にてお伝えしたいと思います。

